

平成30年度第2回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要	
開催日時	平成31年2月5日（火）午前10時00分から11時30分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
意見等を求める内容等	1、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」進捗状況について 2、奈良市環境基本計画の改訂について
参加者	出席者 4人 ・ 事務局 4人
開催形態	公開（傍聴人 0人）
担当課	環境部 環境政策課
意見等の内容の取りまとめ	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>1、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」進捗状況について</p> <p>「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」進捗状況について、【資料①】「奈良市環境基本計画推進会議分野別施策指標評価コメント結果」をご確認いただいた。本資料は、推進会議参加者の皆様からいただいた評価コメントをとりまとめたもので、環境審議会への報告資料として作成した。第1回推進会議において、参考資料としてひな型を示させていただいたところ、総合評価A・B・C・Dの根拠となる数値があった方が良いというご意見をいただいたため、単年度達成率、進捗率、波及効果、効率性の評価点を追記した。環境審議会では、評価コメント結果について良くできているというご意見をいただき、推進会議でどのような意見が出されてどのような取りまとめがなされたかということが見える形にすることができたのではないかと考えている。</p> <p>続いて、来年度の評価方法について、現在の評価方法及び担当課が記入する自己評価シートをご確認いただいた。環境審議会においても、担当課の自己評価シートについて事業も予算も示され、担当課の現状分析やコメントもあり、見やすくなったというご意見をいただいております。来年度も現在の評価方法を継承して進めていきたいと考えている。</p> <p>○質疑・意見の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度からの進捗については、総合評価が上がれば改善、変化なしが現状維持、下がれば後退の矢印で示されているのか。</li> <li>⇒そのとおりである。</li> <li>・指標はこのまま変化しないのか。</li> <li>⇒中間見直しで指標の見直しをさせていただいたため、現計画はこの指標のままで、次期計画改訂時に改めて指標の見直しを行いたいと考えている。</li> </ul>	

- ・評価方法については、各部署でどのような目的を持って施策を推進しているのか分かるような形にするためにはどうしたらいいのかを考えていかなければならない。
- ・総括コメントについて担当課にどのようにフィードバックしていくか、さらに担当課がこの評価結果をどのように効果的に使っているのか関心がある。
- ・評価点が下がった場合に、なぜそうなったかを考えて次の施策展開に活かし、目的を持って推進していくことが重要である。

上記のような意見が出され、来年度は引き続き現在の評価方法を継承して実施することで承された。

## 2、奈良市環境基本計画の改訂について

奈良市環境基本計画は 1999 年 3 月に第 1 次計画を策定し、2012 年 3 月に第 2 次計画である改訂版を策定、2016 年度に中間見直しを行った。第 2 次計画の計画期間が 2021 年度（平成 33 年度）までとなっていることから、来年度から改訂に向けて検討を始めていきたい。改訂に当たっては、これまでの施策の成果や課題を踏まえ、国の「第五次環境基本計画」及び「気候変動適応計画」に沿った形で、「奈良県環境総合計画」、「奈良市総合計画」との整合性を図り、SDGs の考え方も活用しながら、奈良市の特性に応じた計画を検討していきたいと考えている。

改訂のスケジュールについては、来年度の推進会議では計画改訂のスケジュール及び手法についてのご意見をいただき、アンケート素案作成を行うとともに、計画改訂に関する方針決定を行う。翌年 2020（平成 32 年度）にはアンケートを実施し、推進会議においてはアンケート結果及び課題抽出について、さらに前期計画の総括について議論いただき、さらに翌年 2021（平成 33 年度）には計画素案及び最終案に関する議論をしていただく予定である。

なお、第 2 次計画策定の際には、計画の基本方向や目標、取組などに市民・事業者の視点を反映するため「市民ワークショップ」を開催したが、第 3 次計画策定に当たっては環境基本計画推進会議においてご意見・議論していただくことにより市民・事業者の皆様の視点を取り入れ、積極的な計画への参画を図れるよう配慮したものにできればと考えている。

本日の第 2 回推進会議においては、改訂に当たっての自由なご意見をいただきたい。

### ○質疑・意見の要旨

#### <市民参画について>

・第 2 次計画策定時の市民ワークショップについては、メリットはあるものの、労力が大きく、声の大きい人の意見が通ってしまい、行政も取り入れざるを得ないという状況となるため、市民ワークショップによる方法が良いとはいえない。第 3 次計画策定に対する市民参画のあり方はどのように考えているのか。

⇒現時点では環境基本計画推進会議においてご意見をいただきたいと考えている。また、市

民の意見を取り入れる方法としてはパブコメが一つの有効な手段であると考えている。特に環境分野におけるパブコメは多くの意見が出されるのではないかと思われる。

- ・ある分野に対してその分野のスペシャリストに意見を伺う形で取り入れる方法が良い。
- ・市民参画は絶対必要なものだが、市民参画の方法論についての議論は進んでいない。目的意識を持って行政がどのように推進しているのかを市民に分かるようにする示し方が重要であるとする。

#### <評価方法について>

・大学で学生を評価するために活用しているルーブリック評価を行政評価に取り入れてはどうか。具体的な到達目標に対して、どの程度達成できればどの評点が与えられるかについて、評価される側と評価する側が相互に分かるようにするというメリットがある。ルーブリック表を各課に作っていただくのは大変だと思うが、情報の共有化という意味でルーブリックは一つの良いツールだと考える。

⇒福岡県福津市が環境基本計画にルーブリック評価を取り入れている。

ルーブリック評価は、現在の評価方法の表現の仕方が変わるだけかもしれないが、新しい視点を取り入れるということも重要であるため、次期計画改訂の際には評価方法の一つとして検討していきたい。

#### <指標について>

・第2次計画では指標として数値が出ているものが数多く盛り込まれたが、環境基本計画に入れるべき指標なのかどうかについて精査する必要がある。

⇒第2次計画策定時には、総合計画においても施策を数値化することが重要視されていたため総合計画や他計画に指標とされているものを盛り込んだ。しかし、行政の取り組みにおいては数値で評価出来ない施策が数多くあるため、次期改訂時には目標は持つが数値で評価しない方法を検討する必要があると考える。

・数値化出来る施策と出来ない施策を明確にし、数値化出来ない施策についてはルーブリックを活用するなどして、施策の進捗状況を共有化する必要がある。

・今後、評価方法の作り方や使い方の改善を行い、担当課の目的意識をはっきりさせ、数値での評価が出来ない場合、代わりになるものを検討する必要がある。

#### <気候変動適応計画について>

・気候変動適応計画の策定については、どのように考えているのか。

⇒策定は努力義務であるが、県の動向も見ながら、地域実行計画に組み込むなど、今後検討していきたいと考えている。